

茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻

令和2年度後期学科教育点検報告書

令和3年4月18日

報告者 都市システム工学専攻 領域長 呉智深

1. 実施日時と場所

令和3年3月18日（木）12:40～15:06 オンライン会議

2. 出席者

常勤教員：金利昭，山田稔，横木裕宗，小林薫，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，藤田昌史，久野靖広，平田輝満，車谷麻緒，榎本忠夫，内藤将俊，辻村壮平，稲用隆一，増永英治，一ノ瀬彩（全常勤教員19名のうちの17名が出席）（常勤教員のうちの欠席者：呉智深、熊澤貴之、）

非常勤教員：なし

技術職員，事務職員：なし

3. 添付資料

資料1 2020年度後期 教育改善委員会議事録

資料2 2020年度後期 学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 令和2年度後期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 21科目／常勤教員担当科目総数21科目

4. 2 点検した科目

社会基盤情報処理特論、交通計画特論、建築都市デザインスタジオⅢ、ワークショップ、生態系保全再生・モニタリング特論、沿岸環境形成工学特論、サステナビリティ学最前線（前期の科目）、国際実践教育演習（本年度はCOVID-19の影響でなし。昨年度の改善表について説明）、国内実践教育演習、ファシリテーション能力開発演習Ⅰ、ファシリテーション能力開発演習Ⅱ、建築環境デザイン演習、サステナビリティ学インターンシップ、都市システム工学専攻学外実習、建築実務実習（前期の集中科目）、社会基盤デザイン特別演習Ⅱ・研究Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅱ・研究Ⅱ、サステナビリティ学特別演習Ⅱ・研究Ⅱの21科目

後期に開講した専門科目の総数 23 科目中の 91 パーセント。未点検科目(地震工学特論、維持管理工学特論)に対して FD 資料を確認し、次年度領域会議などで点検する。

#### 4. 3 具体的な点検方法

後期に開講した 21 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 各科目について、授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表等の資料に基づいて説明し、学生アンケートでの指摘点を中心に授業方法の優れている点や改善すべき点について自己評価・議論を 3 分程度行った。
- ・ 社会基盤デザイン特別演習Ⅱ、建築デザイン特別演習Ⅱ、サステナビリティ学特別演習Ⅱ、社会基盤デザイン特別研究Ⅱ、建築デザイン特別研究Ⅱ、サステナビリティ学特別研究Ⅱの 6 科目については、まず、「①実施内容と状況」、「②実施の証拠と保存状況の確認」、「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し、「④学生からの報告と指導への要望」を確認した。
- ・ 前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について、授業点検改善表を用いて各出席者が確認した。

#### 5. 点検評価の結果

##### 5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

・ 昨年度に改善すべき問題点は点検を行った全ての科目において改善されていたことが確認された。

##### 5. 2 今回の授業方法で優れている点

・ 「社会基盤情報処理特論」の点検における議論の中で、ゲストスピーカーによる「AI 技術の概要や建設分野への適用事例の講演、CNN による画像分類実習とディスカッション」について好評であり、学生の学習意欲やディスカッションを活発にする上で効果的であることが挙げられた。

・ 「建築環境デザイン演習」の点検における議論の中で、演習に取り組むにあたり基礎知識の不足部分が多々感じられたため、復習のための講義を実施し、講義と演習を繰り返す形で授業を進めたところ、多い学生では 3~4 時間の自主学習に取り組んでいた点が良く、成果物の完成度も高かった。

##### 5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

・ 都市システム専攻の講義(演習)の単位付与について、専攻が主体的に内容を吟味して、専攻としての単位基準を満たしているか確認を、教務 WG、最終には専攻会議で承認を得る方がよいことが確認された。

## 6. 教育改善活動

学生懇談会の総括をテーマに、カリキュラムや授業、研究活動、教育環境に関する学生からの意見が報告され、以下のような検討がなされた。

- ・ カリキュラムについて「大学院の専門科目と教養科目の時間が重なっている」、「大学院共通科目、研究専門科目の区分けが理解しづらい」があり、今後時間割等の調整をすること、履修に関するガイダンスでの対応をしていくことが確認された。
- ・ 研究活動について、Wifiの接続が繋がりにくいところがある、被験者実験を行う場所（無響室）がなくて困っているなどの意見があり、今後、要望を踏まえて施設環境の見直しを検討していくことが確認された。
- ・ これまでの学生懇談会で挙がっていた意見と比べると、以前は重大な問題を含んでいる意見もみられたが、今回はそのような意見はみられず改善されたとも考えられる。
- ・ これらの学生の意見や議論を参考に、今後、教員間で情報を共有して改善すべき点（改善が必要な項目と改善しなくてもよいと思われる項目など）を整理し、専攻でさらに対策を検討していく方針でまとまった。

## 7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を学科事務室に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

## 8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

令和2年度産学連携カリキュラム改良委員会（令和3年1月19日開催）においては、主に

- ・ 土木建築融合カリキュラムのあり方
- ・ 学科教育の新分野展開の可能性
- ・ 遠隔授業のあり方

などについて、外部委員と意見交換を行った。その結果、学科・専攻の教育の改善点として、

- ・ 基礎教育を重視しながら、応用教育とのバランスをとる
- ・ 土木建築融合教育のメリットを学内外に発信すること
- ・ 情報教育（リテラシーと応用）の重要性
- ・ 遠隔授業の利点を積極的活用

などが得られた。今後の学科・専攻での教育改善で取り入れていく予定である。

## 9. その他

特になし